

# 就職・キャリア形成支援センター 自己点検・評価報告書

## 1 理念・目的

<b>(理念・目的等)</b> ○ 就職・キャリア形成支援センターの理念・目的・教育目標
<b>★現状(評価)</b> 2006年度、学長の下に明治大学就職・キャリア形成支援センターが設置された。本センターは、「『個』を強くする大学」として実学を重視する本学の教育理念に基づき、学生の就職支援及びキャリア形成支援を推進することにより、学生の職業観及び職業に関する知識・技能を涵養し、及び主体的に進路を選択できる能力の育成を図り、もって社会に有用な人材を輩出することを目的としている。
<b>★改善方策</b>

## 2 組織

<b>(教育研究組織)</b> ○ 就職・キャリア形成支援センターの組織構成と理念・目的等との関連
<b>★現状(評価)</b> ・現状 本センターは、センター長1名、副センター長2名、センター推進委員6名、教育支援部長及び教育支援部就職・キャリア形成支援事務長2名で組織されている。センター長については、学長の命を受けセンター業務を統括し、センターを代表しており、その任は教務部長が担っている。 また、本センターの運営に関して審議するための運営委員会を設置している。運営委員会は、センター長1名、副センター長2名、センター推進委員6名、各学部教授会から推薦された専任教員9名、大学院委員会から推薦された専任教員2名、教育支援部長及び教育支援部就職・キャリア形成支援事務長2名で構成されている。その業務運営にあたっては、就職・キャリア形成支援事務室が設置され、文系学部には就職・キャリア形成支援グループ、理系学部には生田就職・キャリア形成支援グループが置かれ、本センターの管掌事務部署となっている。 また、理工・農学部には就職指導(担当)委員会があり、学部独自のきめ細かな指導を行っている。 ・長所 センター運営委員として、全学部及び大学院から委員が選出されているため、本センターの活動を全学的に周知できる体制にある。 ・問題点
<b>★改善方策</b> ・問題点に対する改善方策

## 5 学生生活

<b>(就職指導)</b> ○ 学生の進路選択に関わる指導の適切性
--------------------------------------

★現状(評価)

- ・現状
- ・長所

主に3年生以上の学生を対象とした就職活動支援・指導に関して就職・キャリア形成支援事務室を中心として、きめ細かな指導を行ってきた結果、「就職の明治」といわれるほどの実績をあげてきた。高校の進路指導教員を対象とした2007年度「就職指導や資格取得に熱心な印象の大学」アンケートでは第1位であった(朝日新聞、2007年7月16日付)。

- ・問題点

学生が主体的に進路選択できるよう、低学年から進路に関して体系的な支援体制を組む必要がある。しかし、事務組織が改編されて間もないため、就職支援及びキャリア形成支援が有機的に行われているとはいいがたい面がある。

★改善方策

- ・問題点に対する改善方策

次年度については、就職支援とキャリア形成支援を一体と捉えた支援体制を組み、それぞれの支援プログラムが有機的に行われるよう計画を立てていきたい。

(就職指導)

- 就職担当部署の活動の有効性

★現状(評価)

- ・現状

年度計画のもと、就職・キャリア形成支援事務室が、就職・キャリア形成支援の各種行事を企画・実施している。支援行事の企画・運営を業者に委託している大学もあるが、本学独自の「手作り」の支援を続けている。その中でも特に重きを置くのがフェイス・トゥ・フェイスによる「就職・進路相談」である。年間相談受付件数は約15,000件に達している。

また、11月に企業を大学に招き、大学の就職関係者と情報交換を行う「企業と大学との懇談会」を開催し、参加企業数は338社(2006年度299社)であった。この催しは、大学に対する理解を深めるためにも非常に有効な波及効果をもたらしている。本センターでも、就職・キャリア形成支援センター関係者のみならず、各学部のインターンシップ関係者にも出席をお願いし、懇談会の場で企業、大学双方の要望や幅広い意見の交換等を行った。

<企業と大学との就職懇談会>

実施行事		実施日
企業と大学との就職懇談会	338企業	11月14日

- ・長所

就職・進路相談には口コミで学生が訪れ、前年度より在学学生数が減少する中、相談受付件数は前年並みである。企業と大学との懇談会は、情報交換の場として有効に利用され、各学部と企業とのパイプ役を果たした。

- ・問題点

「就職・進路相談」(インターンシップ等の相談も含む)は、学生の多様なキャリアニーズに対する専門的知識を有した担当者が必要である。現在、就職・キャリア形成支援担当事務室では6名の担当者が公的認定資格を取得しているが、今後も適切な専門知識を有した担当者の整備が求められる。

★改善方策

- ・問題点に対する改善方策

学生の多様なキャリアニーズに対して適切な専門知識を有する担当者の増員を図る。

(就職指導)

- ・学生への就職ガイダンスの実施状況とその適切性

★現状(評価)

・現状

就職・キャリア形成支援行事は、学生の授業に配慮しつつ、年間を通じて学生が納得した進路選択ができるよう協議・承認している。

2007年度は、外国人留学生及び大学院生に対する支援行事強化を政策的に行った。その一貫として、TOEIC公開テストの無料受験を50名実施した。

<駿河台・和泉校舎>

実施行事	備考	新規	対象者	実施日	参加者数
文学部新入生対象 進路に関するガイダンス	文学部主催		文学部1年生	4/3	950
経営学部 就職活動に関する説明	経営学部主催 履修ガイダンスの中で開催		経営学部3年生 経営学部4年生	4/4	350 200
文学部3年生対象 総合ガイダンス	文学部主催		文学部3年生	4/5	700
情報コミュニケーション学部3年生ガイダンス	情報コミュニケーション学部主催		情報コミュニケーション学部3年生	4/5	350
会計専門職研究科 講演会	会計専門職研究科主催		会計専門職研究科生	4/5	100
商学部 新入生父母説明会	商学部主催		新入生父母	4/7	500
和泉 進路相談会	和泉進路相談室で実施(40回)		学部1・2年生	4/19～1/18	53
OB・OG 懇談会	21回		学部3年生	4/27～3/7	2096
グループ相談会	34ゼミ		学部3年生	5/9～12/13	435
マスコミ全体セミナー	MMC(明治大学マスコミクラブ)主催		全学年	5/10	330
アナウンサーセミナー	MMC主催		全学年	5/15	100
VPI職業興味検査	和泉開催 5回		学部1・2年生	5/17, 6/14, 10/11 11/29, 12/21	76
インターンシップ・オリエンテーション	5回		全学年	5/25, 30, 6/5, 7, 8	400
文学部 就職支援講座	文学部主催 2回			5/21, 6/25	214
放送セミナー	MMC主催		全学年	5/22	160
4年生対象 就職相談会	5回		学部4年生	6/5, 7/7, 7/31, 10/10 11/16	138
出版セミナー	MMC主催		全学年	6/7	230
新聞セミナー	MMC主催		全学年	6/12	100
インターンシップ相談会	4回		全学年	6/15, 22, 25, 26	70
進路選択支援ワークショップ	和泉開催	○	学部1・2年生	6/15, 12/13	26
プレ就職・進路ガイダンス			学部3年生	6/18～20	1040
大学院生対象 プレ就職・進路ガイダンス		○	院1年生	6/25	51
外国人留学生対象 プレ就職・進路ガイダンス		○	学部3年生外国人留学生	6/29	32
広告セミナー	MMC主催		全学年	6/21	300
制作・エンターテイメントセミナー	MMC主催		全学年	6/26	250
国際インターンシップ説明会			全学年	6/26	10
和泉グループワーク講座	和泉開催		学部1・2年生	6/28	22
就職講演会 「業界・企業研究をしよう！ ～効果的な会社四季報の見方・読み方」			全学年	6/28	350
公務員ガイダンス(国家公務員編)			学部3年生	7/4	90
公務員ガイダンス(地方公務員編)			学部3年生	7/5	60
情報コミュニケーション学部	情報コミュニケーション学部主催		学部3年生	7/6	60

就職支援行事					
協定校派遣学生対象 就職説明会			学部3年生協定校派遣学生	7/7	14
採用担当者によるパネルディスカッション	和泉開催		学部1・2年生	7/12	120
カードソート・ワークショップ		○	学部3年生	7/20	16
就職・進路ガイダンス	7回		学部3年生	9/26～28, 10/2, 3, 5, 6	4231
大学院生対象 就職・進路ガイダンス		○	院1年生	10/1	111
外国人留学生対象 就職・進路ガイダンス		○	学部3年生外国人留学生	10/4	61
就職・進路ガイダンス欠席者に対するフォロー	14日間		学部3年生	10/9～11 10/13～26, 30	396
マナー講座		○	学部3年生	10/9, 10/10	830
個人面談（個人記録カードに基づく）			学部3年生	10/16～26	387
卒業生社長講演会	和泉開催		学部1・2年生	10/18	140
就職能力試験及び就職適正検査			学部3年生	10/21	2113
就職活動体験報告会	11回		学部3年生	10/22～12/10	267
経営学部 経営総合講義A	経営学部		学部1・2年生	10/24	62
エントリーシート対策講座	3回		学部3年生	10/26, 11/15, 28	1638
経営学部 就職セミナー「女子学生の就職活動」	経営学部主催		学部3年生女子	10/27	19
文学部 進路支援講座	文学部主催 和泉開催		学部2年生	10/29	66
業界研究会	16業界		学部3年生	10/29～12/18	3804
日経学生経済常識テスト			学部3年生	10/30	576
経営学部 就職セミナー「グループワーク」	経営学部主催		学部3年生	11/6, 11/7	81
日経適性テスト	和泉開催		学部1・2年生	11/8	385
国家公務員・会計士・民間企業それぞれの働き方を探る	和泉開催	○	学部1・2年生	11/15	73
外国人留学生対象 筆記試験対策講座 初級コース		○	学部3年生外国人留学生	11/16	40
外国人留学生対象 筆記試験対策講座 上級コース		○	学部3年生外国人留学生	11/19	32
政治経済学部 就職支援セミナー	政治経済学部主催		学部3年生	11/18	200
グループワーク講座	6回		学部3年生	11/21, 12/10, 12, 2/26, 27	521
企業見学会	4回		学部3年生	10/17, 11/6, 13, 21	80
外国人留学生就職活動体験報告会		○	学部3年生外国人留学生	11/29	11
進路選択支援ワークショップ	和泉開催	○	学部1・2年生	12/13	14
仕事研究セミナー	3回		学部3年生	12/19, 20, 21	1155
学内企業セミナー（企業・公務・Uターン）	講義形式 114社		学部3年生	2/1～8	5217
合同企業セミナー（企業・公務・Uターン）	合同形式 322社		学部3年生	2/1～22	4114
模擬面接会	3回		学部3年生	2/13, 14, 29	270

< 生田校舎 >

実行事	備考	新規	対象者	実施日	参加者数
学部間共通総合講座（前期） キャリアデザイン講座	前期	○	3年	4/12～7/12	
学部別新入生就職ガイダンス （就職委員長）	3回		学部3年、修士1年	4/4～4/5	全学生

千葉県庁農業職OB懇談会	1回	○	学部3年、修士1年	4/27	15
茨城県庁農業職OB懇談会	1回	○	学部3年、修士1年	5/8	10
VPI職業興味検査	3回		学部3年、修士1年	5/17、5/18	200
就職活動基礎講座（職務適性テスト+講演）	2回	○	学部3年、修士1年	6/26、6/28	219
職務適性テストセミナー解説	1回		学部3年、修士1年	7/10	140
国家公務員（経済産業省）業務説明会	1回	○	学部1～3年、修士1年	7/11	7
国家公務員（経済産業省）業務説明会	1回	○	学部1～3年、修士1年	9/5	5
工場等会社施設見学会（チャーターバス利用）	1回		学部3年、修士1年	9/19	46
第1回就職説明会（学科主催）	9回		学部3年、修士1年	9/25～9/29	1314
業界研究セミナー	16社		学部3年、修士1年	10/2～10/30	3032
就職特別講演会（日本経済新聞社）	1回		学部3年、修士1年	10/11	172
エントリシート対策講座（添削）	2回		学部3年、修士1年	10/18、11/9	960
就職適性検査・筆記試験対策テスト（無料）	1回		学部3年、修士1年	10/20	854
VPI職業興味検査	2回		学部3年、修士1年	10/31	123
個人面談・個人記録カード提出	6回		学部3年、修士1年	11/5～11/12	1029
公務員体験報告会	1回		学部3年、修士1年	11/12	31
就職活動支援講座	1回		学部3年、修士1年	11/13	230
日経経済常識テスト+講演（日本経済新聞社）	1回		学部3年、修士1年	11/16	130
パネルディスカッション（文系就職対象）	1回	○	学部3年、修士1年	11/30	50
第2回就職説明会（体験報告会）	9回		学部3年、修士1年	11/27～12/6	887
面接対策講座	2回		学部3年、修士1年	12/10、12/12	405
女子体験報告会	1回		学部3年、修士1年	12/11	18
OB訪問イン生田キャンパス	1社		学部3年、修士1年	12/20	16
事業所見学会（日産自動車）	1社	○	学部3年、修士1年	12/25	44
メイクアップ講座（女子学生対象）	1回	○	学部3年、修士1年	1/11	86
物理学科主催OB懇談会（富士ゼロックス）	1回	○	学部3年、修士1年	1/11	30
第3回就職説明会（学科主催）	5回		学部3年、修士1年	1/28～1/30	469
工場等会社施設見学会（チャーターバス利用）	3社		学部3年、修士1年	2/1～2/6	52
学内個別企業セミナー	43社		学部3年、修士1年	2/7～2/29	3241
学内合同企業セミナー	167社		学部3年、修士1年	2/7～2/18	2135
OB訪問イン生田キャンパス	4社		学部3年、修士1年	1/16、3/5～3/14	82

2007年度より、出口支援から見た教育プログラムの開発を行った。このプログラムは、社会や企業で求められている、自ら課題を発見し解決する力や、他者に働きかけ仕事を行っていく力、また自己の特性を理解し主体的に自らのキャリアを切り開いていく力等の社会人として必要となる基礎な能力を、ビジネスの現場で使われている教材やケーススタディ等を用いながら養うことを目的としている。

<就職・キャリア形成支援プログラム>

実施講座	開催地区	対象者	開催期・回数	参加者数
チームリーダー育成講座	駿河台	学部3・4年生	前期 5回	15
課題解決型グループワーク講座II	駿河台	学部3・4年生	通年 12回	18

J C D A (日本キャリア開発協会) 寄付講座 「キャリア開発集中講座」	駿河台	学部3・4年生	夏期 6回	8
問題解決型グループワーク講座 I	和泉	学部2年生	後期 8回	16

・長所

学生の要望や企業等の採用動向も取り入れつつ、毎年支援行事の内容や開催時期の見直しを行っている。行事に参加した外国人留学生や大学院生は、熱心であり、TOEIC公開テスト受験機会提供も好評であった。また、就職・キャリア形成支援プログラムについては、参加人数は少なかったものの、アンケートによると参加者の満足度は非常に高い。

・問題点

- ①学生の要望は、就職活動対策講座の充実である。しかし、そうした対策講座だけではなく、社会に有用な人材を育成すべく、低学年のうちからのキャリア形成支援行事を充実させ、職業観の育成を図る必要がある。
- ②外国人留学生や大学院生への支援行事の強化を図ったが、まだ充実しているとはいえない。
- ③就職・キャリア形成支援プログラムについては、参加者が少なかった。

★改善方策

・問題点に対する改善方策

- ①低学年からのキャリア形成支援行事の充実を図る。
- ②外国人留学生や大学院生の特徴を踏まえた支援行事を増やし、進路選択までの体系的な支援行事等を実施する。
- ③就職・キャリア形成支援プログラムについては、広報の仕方を工夫するとともに、学生の参加しやすい内容や新たなプログラムの導入を図る。

(就職指導)

・就職統計データの整備と活用の状況

★現状(評価)

・現状

2007年度の卒業生数に対する就職者数は72.1%(2006年度67.3%)であった。  
進路先データについては、文系学部では、10月にゼミナールごとの進路状況調査を行っている。理系学部では、前期に研究室ごとに進路状況調査を行っている。最終的には、学位記交付時に進路先届出の提出を求めている。卒業後の進路先データ把握率は96.5%である。  
就職統計データについては、例年、就職概況として、学生の進路及び企業の求人状況等をまとめた統計資料を発行し、その中で当該年度の進路状況等の分析を行っている。  
その他に、文系学部では、6月に在学生5%を抽出し内定状況調査を行っている。2007年度は、281名を調査し、内定率77.2%(2006年度は64.9%。ただし、学生数2%の抽出及び二部生も在籍していた)であった。  
また、全学部4年生対象に「学部4年生の学生生活と進路選択に関する調査」を実施した。

・長所

把握率が前年比1.5%UPした。また、進路先データを基に、入学形態ごとの進路状況や進路届提出状況などの統計データを作成することができた。学部4年生の学生生活と進路に関する調査結果のデータを分析することができた。

・問題点

- ①各種統計データの作成や分析を行っているが、各支援行事計画や各学部へのフィードバックに繋がっていないものもある。
- ②進路を把握できない者についてもさらに回収する方策を検討する必要がある。

★改善方策

・問題点に対する改善方策

- ①統計データの積極的活用を図る。
- ②回収方法のさらなる改善を図る。

## (キャリア教育・インターンシップ)

○ 学生の進路選択に関わる指導の適切性

### ★現状(評価)

#### ・現状

2007年度より、生田校舎でもキャリアデザイン関連講座が開講された。

<学部間共通総合講座(キャリアデザイン関連講座)>

実施講座	開催地区	対象者	開催期・回数	参加者数
キャリア講座～あなたの将来設計～	和泉	全学年	前期 13回	281
キャリア講座～あなたの将来設計～	和泉	全学年	後期 13回	131
インターンシップ入門(全学版企業研修)	駿河台	全学年	前期 15回	40
インターンシップ入門(全学版企業研修)	和泉	全学年	後期 13回	253
スキルアップ講座	駿河台	全学年	前期 13回	131
スキルアップ講座	駿河台	全学年	後期 13回	84
働く・仕事・生きる～職業と自分～	生田	全学年	前期	85

<全学版インターンシップ制度>

学生が所属する学部・学年に関係なくインターンシップに参加することができる「全学版インターンシップ」の参加学生数は93名(2006年度75名)、受入企業・団体数は2007年度実績で111機関(2006年度79機関)で増加している。また、全学版インターンシップ・オリエンテーションを5日間開催し、参加学生数は400名、全学版インターンシップ相談会を4日間開催し、参加学生数は70名、国際インターンシップ説明会を1日開催し、参加学生数10名であった。

<公募(自己開拓型)インターンシップ>

本センターでは、全学版インターンシップの他に、企業等が実施し、学生が企業等に直接申し込む「公募(自己開拓型)インターンシップ」の情報管理や応募サポート等を行っている。2007年度については、170機関もの企業・団体からの情報が寄せられた(2006年度約150機関)。

現在、学内に複数のインターンシップ制度が存在することにより、受入企業・団体の開拓におけるバリエーションが生じている。学生に対しても、インターンシップに関する窓口や申込方法が複数存在するため混乱を招いており、重要かつ深刻な問題となっている。そのため、2007年11月学内インターンシップ制度整備検討WG内規を制定し、学内インターンシップ制度及び窓口の一本化を視野に入れ、整備を行う環境を整えた。

#### ・長所

2007年度、学部間共通総合講座(キャリアデザイン関連講座)が生田校舎でも開講され、3地区全てでキャリアデザイン関連講座の受講が可能となった。

#### ・問題点

- ①全学版インターンシップの参加者及び参加希望者が年々増加している一方、受入企業・団体の数が少なく、業種・職種にも偏りがあるため、学生の実習希望に応えることができない現状がある。
- ②インターンシップに関する学生からの相談業務においては、学生の多様なキャリアニーズに応えるための専門知識を有した担当者が必要である。
- ③学内に複数のインターンシップ制度があるための弊害について、実質的な対策を講じることができていない。

### ★改善方策

#### ・問題点に対する改善方策

- ①受入企業・団体の開拓を強化し、より多数の学生を派遣できるようにする。
- ②学生の多様なキャリアニーズに対して適切な専門知識を有する担当者の増員を図る。
- ③学内インターンシップ制度及び窓口の一本化を視野に入れた整備について、具体的対策を検討する。

## 9 事務組織

### ★目的・目標

就職・キャリア形成支援センターの管掌事務部署として、センターの目的達成のため、以下のような基本姿勢をもって業務にあたる。

- (1) 学生の「就職」に関する業務の基本姿勢は職業安定法第33条の2に基づいて、学生及び卒業生に対して職業紹介及び就職指導を行う。
- (2) 学生の希望や能力・特性が十分に生かせる職業に就くための指導・支援活動を行う。
- (3) 就職しようとする学生と、学生を求める企業等の間にあつて、双方との連携及びコミュニケーションを取りつつ、現状の把握と情報の提供を積極的に進めていく。(情報の収集・開示の充実)
- (4) 就職・キャリア形成支援センターの目的達成のため、出口支援としての位置付けを確認する。
- (5) 低学年(1・2年生)からインターンシップ参加への支援・サポート
- (6) 魅力ある就職・キャリア形成支援プログラムの実施

### (事務組織の構成)

○ 事務組織の構成と人員配置

### ★現状(評価)

#### ・現状

本センターの運営にあたっては、以前は、就職事務部と教務事務部の2部署で行っていた。しかし、2007年9月、事務組織改編により就職・キャリア形成支援事務室が設置され、就職・キャリア形成支援センターの管掌事務部署となった。文系学部には就職・キャリア形成支援グループ(専任職員10名、内公的認定有資格者4名)、理系学部には生田就職・キャリア形成支援グループ(専任職員4名、内公的認定有資格者1名)が設置された。

#### ・長所

就職支援とキャリア形成支援を体系的かつ一貫して行う環境が整備された。

#### ・問題点

事務組織は旧就職事務部が母体となりキャリア形成支援業務が移管された。しかし、業務量の増加に伴う人員増員がなされず、業務運営に支障をきたしている。また、次年度は和泉校舎にも事務室を整備する必要があり、人員補充が急務である。

また、事務組織が改編されて間もないため、就職支援及びキャリア形成支援が有機的に行われているとは言いがたい面がある。

### ★改善方策

#### ・問題点に対する改善方策

人員補充を強く要望していく。

就職支援とキャリア形成支援を一体と捉えた支援体制を組み、それぞれの支援プログラムが有機的に行われるよう、一貫した計画を立てる。

### (事務組織と教学組織との関係)

○ 事務組織と教学組織との間の連携協力関係の確立状況

### ★現状(評価)

#### ・現状

本センターでは、センター運営委員会において、就職及びキャリア形成支援に関する全般的な事項・支援行事について協議を行い、その運営については、就職・キャリア形成支援事務室が行っている。このセンター運営委員会には、事務組織から教育支援部長及び就職・キャリア形成支援事務長が委員として参加している。

#### ・長所

委員として職員が参加することにより、事務組織と教学組織との間の連携協力関係の強化が図られている。

・問題点
★改善方策
・問題点に対する改善方策
(事務組織の役割) ○就職・キャリア形成支援センターに関わる企画・立案・補佐機能を担う事務組織体制の適切性
★現状(評価)
・現状 事務組織改編により事務管掌部署は1つになったが、実際の運営にあたっては、一部業務を教育運営グループ員が行うなど事務組織体制が未整備の部分がある。
・問題点 新管掌事務部署として、人員の確保や業務移管のための引継ぎなど事務組織体制の整備が急務である。
★改善方策
・問題点に対する改善方策 人員の補充を強く要望する。移管業務のマニュアル整備を行う。
(スタッフ・ディベロップメント(SD)) ○事務職員の研修機会の確保の状況とその有効性 ・事務組織の専門性の向上と業務の効率化を図るための方途の適切性
★現状(評価)
・現状 公的認定資格については、事務職員14名のうち5名が取得している。また、恒常的に、研修制度の利用や外部講演会等での情報収集など研修機会の確保をしている。 専門性の向上と業務の効率化については、各地区で共有データベースに情報を集約し活用している。
・問題点 和泉校舎の事務室設置などが予定され、今後は地区間での情報共有も必要となる。 各地区ごとに手続き方法等が違う場合があり、できる部分は統一化を図る必要がある。
★改善方策
・問題点に対する改善方策 共有データベースの構築を図る。各地区ごとに行われている業務について、手続き方法等できる部分は統一化を図る。

## 12 管理運営

★目的・目標
就職やキャリア形成は、社会の変化に大きく影響を受けるものである。本センターの業務はそうした就職やキャリア形成を扱っており、本センター目的達成のために、迅速な意思決定と全学的な支援体制を組むことを目標とする。
(委員会) ○設置している委員会等の役割とその活動の適切性
★現状(評価)

・現状

本センターの運営に関して審議するための運営委員会を設置している。運営委員会は、センター長1名、副センター長2名、センター推進委員6名、各学部教授会から推薦された専任教員9名、大学院委員会から推薦された専任教員2名、教育支援部長及び教育支援部就職・キャリア形成支援事務長2名で構成されている。2007年度は、運営委員会を3回開催した。

また、学内に存在する複数のインターンシップ制度による問題解決のため、2007年11月に「学内インターンシップ制度整備検討WG」を設置した。

・長所

センター運営委員として、全学部及び大学院から委員が選出されているため、本センターの活動を全学的に周知できる体制にある。

・問題点

学内インターンシップ制度整備検討WGについては、発足したばかりであり、今後の活動方法等が未整備となっている。

★改善方策

・問題点に対する改善方策

学内インターンシップ制度整備検討WGについて、今後の活動方法等の整備を図る。

(委員長の権限と選任手続)

○委員長の選任手続の適切性、妥当性

★現状(評価)

・現状

センター規程において、センター長は、学長の命を受け、その任は教務部長が担うことが明文化されており、そのとおりに実施されている。

・長所

・問題点

なし

★改善方策

・問題点に対する改善方策

(意思決定)

○就職・キャリア形成支援センターの意思決定プロセスの確立状況とその運用の適切性

★現状(評価)

・現状

本センターに関する議案は、本センター運営委員会ではほぼ審議・決定され、学部授業の休講措置を伴う内容のものについてのみ教務部委員会の議を経た後、各学部へ審議依頼をしている。

・長所

意思決定プロセスが明確で、自立的な活動可能な体制である。

・問題点

★改善方策

・問題点に対する改善方策

## 14 自己点検・評価

### ★目的・目標

本センターの活動を最適に行うための点検・評価体制を整える。

### (自己点検・評価)

- 自己点検・評価を恒常的に行うための制度システムの内容とその活動上の有効性
- 自己点検・評価の結果を基礎に、将来の充実に向けた改善・改革を行うための制度システムの内容とその活動上の有効性

### ★現状(評価)

#### ・現状

独自の点検・評価システムはないが、学内の自己点検・評価報告書作成時には、その内容について、センター運営委員会で審議している。また、実施した行事結果については、常にセンター運営委員会で報告されている。

管掌事務部署の就職・キャリア形成支援事務室において、各行事や就職活動報告書で学生からアンケートを取り、その結果を次年度行事策定に活用している。

#### ・長所

#### ・問題点

### ★改善方策

- ・問題点に対する改善方策

### (自己点検・評価に対する学外者による検証)

- 自己点検・評価結果の客観性・妥当性を確保するための措置の適切性

### ★現状(評価)

#### ・現状

自己点検・評価に対する学外者による検証システムはない。

#### ・長所

#### ・問題点

### ★改善方策

- ・問題点に対する改善方策

### (大学に対する社会的評価等)

- ・ 大学・学部・大学院研究科の社会的評価の活用状況
- ・ 自大学の特色や「活力」の検証状況

### ★現状(評価)

#### ・現状

「就職」に関しては、社会的に一定の評価を得ている。

・長所

高校の進路指導教員を対象とした2007年度「就職指導や資格取得に熱心な印象の大学」アンケートでは第1位であった(朝日新聞, 2007年7月16日付)。

・問題点

★改善方策

・問題点に対する改善方策